

図1 播種年のAPI補正有効積算気温と播種翌年の1番草乾物アルファルファ率の関係

- ※ API: 土壌水分の多少を表現する指数。小さいほど干ばつ状態であることを示す。
- ※ API補正有効積算気温: 播種後APIが3以上になってから積算し、API3以下が7日間以上連続する場合は積算から除外した。
- ※ 播種翌年1番草乾物アルファルファ率6.59%: 播種翌々年間乾物アルファルファ率35%を確保するための目標値であり、アルファルファ定着の目安とした。

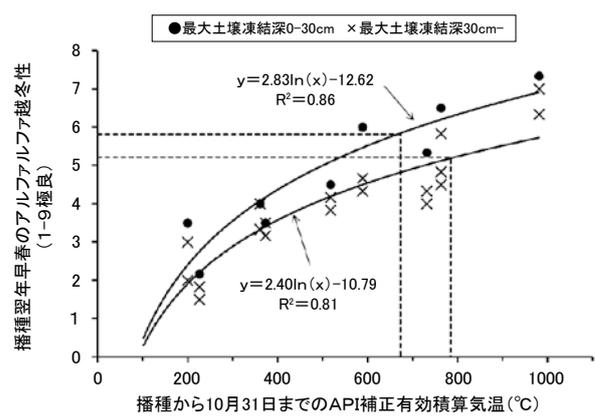


図2 播種年のAPI補正有効積算気温と播種翌年のアルファルファ越冬性の関係

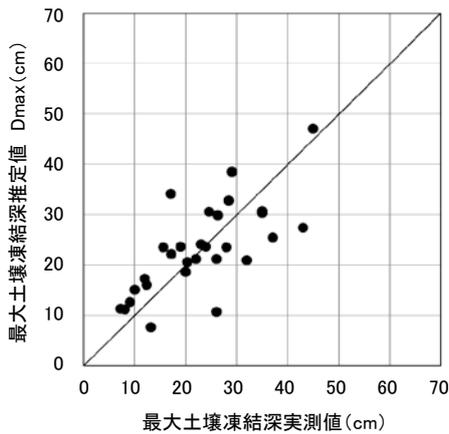


図3 最大土壌凍結深実測値と最大土壌凍結深推定値の関係



表4 チモシー主体アルファルファ混播草地における播種晩限マップ(必要な有効積算気温を70%確率で確保できる播種日)

※確率は1994年～2013年の20年間の気象データに基づく。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。  
 道総研根釧農業試験場 研究部 飼料環境グループ 牧野 司  
 電話 (0153) 72-2842 FAX (0153) 73-5329  
 E-mail: makino-tsukasa@hro.or.jp